

## 4月定例記者会見の概要

- 1 日時 令和4年4月4日（月）9時30分～10時30分
- 2 場所 本庁舎3階 第一会議室
- 3 出席者 <報道機関>
  - ① 朝日新聞社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
  - ② 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
  - ③ 毎日新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
  - ④ 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
  - ⑤ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）
  - ⑥ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
  - ⑦ 共同通信社 福島支局（南相馬記者クラブ会員）

計 7 社

### < 市側 >

- ・市長・総務部長
- (テレビ会議)
- ・新田副市長・小高区役所長・鹿島区役所長
  - ・復興企画部長・復興企画部政策担当理事
  - ・市民生活部長・健康福祉部長
  - ・健康福祉部新型コロナ対策担当理事・こども未来部長
  - ・経済部長・経済部農林水産担当理事・経済部企業支援担当理事
  - ・建設部長・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 17 人

- (司会進行) 秘書課長
- (会議記録) 秘書課広報広聴係

### 【市政報告】

はじめに、地震の発生についてです。

3月16日に福島県沖を震源とする震度6強の地震が発生しました。

市では、地震発生後ただちに災害対策本部員会議を開催し、沿岸部へ避難指示を発令、先行避難所の開設や給水活動、ブルーシートや土のうの配布等の対応にあたりました。

被災状況につきましては、鹿島区と原町区の一部で停電と断水が発生したほか、3月31日時点で人的被害5名、住宅被害は、り災証明申請件数が2,481件、道路の損傷160件などが確認されています。

市では、今回の地震による災害からの復旧に向けて、住宅等の修繕・補修、仮住居の提供、ごみの処分、見舞金の支給、生活資金の貸付、土砂・がれきの撤去等について、各種支援制度を設けております。

また、市社会福祉協議会では、災害ボランティアセンターを開設して対応しています。

現在、新型コロナの影響を踏まえ、県内からボランティアを募集しておりますが、被災された方からの依頼件数に対し、ボランティアの人数が不足している状況です。ぜひ、皆様の助け合いの力をお貸しいただけますようお願いいたします。

また、被害の大きい鹿島区から、4月2日、3日に生活等支援に係る市民説明会を開催しました。説明会では、被災された皆様の生活再建を支援するため、各種支援制度について説明をいたします。今後は4月6日に小高区、4月12日に原町区での開催を予定しています。

被災した市民の皆様が、一日も早く元の生活を取り戻すことができるように、市民の皆様へ寄り添って、全力で災害対応に取り組んでまいります。

今回の被災に伴い、自衛隊や国土交通省、海上保安庁、福島県、各自治体や民間団体、民間企業の皆様から人員の派遣や物資の提供などいただき、復旧にあたってはボランティアの皆様にお力添えをいただいております。

この場を借りて、改めて、深く感謝申し上げます。

次に、令和4年度の人事についてです。

林秀之前副市長の後任として、4月1日付で新田正英副市長が就任いたしました。

令和4年度の人事は、南相馬市復興総合計画後期基本計画の着実な推進と復興の新たなステージに的確に対応していくため、適切な配置を行いました。

具体的には、業務効率化を含めた自治体DXの推進が本市においても急務であることから、新たにデジタル推進課を設置しました。また、福島イノベーション・コースト構想などの取り組みを強化するため、復興企画部に「政策担当理事」を配置しました。さらに、産業団地整備や企業誘致の取り組み体制を強化するため「企業支援担当課長」を配置し、事業所における子育て支援を強化するため「事業所子育て支援担当課長」を配置しました。

加えて、南相馬鹿島サービスエリアを含む地域資源を生かした地域活性化の取り組みを強化するため、「鹿島活性化担当課長」を配置しました。

市立総合病院の体制については、新たに耳鼻咽喉科、血液内科の常勤医師が着任となることから、入院診療を開始する予定です。また、広島大学病院より消化器科の常勤医師が一名派遣されました。

令和4年度も引き続き、市が抱える様々な課題を着実に、かつきめ細やかに遂行していけるように、職員一丸となって取り組んで参ります。

それでは、前回の記者会見から最近までの出来事についてご報告申し上げます。

はじめに、コロナウイルス感染症についてです。

まず、感染状況と感染対策についてです。

3月6日に非常事態宣言及びまん延防止等重点措置が解除されたことに伴い、市内の公共施設の利用制限や市主催イベント等の中止・延期といった市の独自対策についても同日に終了いたしました。しかしながら、市内では連日新たな陽性患者が確認されており、まだまだ油断できない状況です。

県内では感染者数がリバウンド傾向にあるとして、3月30日に、県は「感染拡大防止重点対策」を4月17日まで延長することを決定いたしました。

子どもや高齢者を感染から守るため、関係施設の皆さまにご協力いただくとともに、ご家庭内での感染対策、移動時や会食時のリスク回避の徹底をお願いいたします。

市民の皆様方の引き続きのご理解、ご協力をお願いいたします。

次に、新型コロナウイルスのワクチン接種についてです。

18歳から59歳を対象とした3回目の集団接種は、3月26日に終了を予定しておりましたが、地震の影響により、接種日の振替を行ったため、4月1日に終了いたしました。4月3日時点で41,592名の方への接種を完了しています。

12歳から17歳を対象とした3回目のワクチン接種については、4月29日から5月1日の3日間で実施する予定で、現在準備を進めております。

5歳から11歳を対象としたワクチン接種は、3月22日から開始し、4月3日時点で680名の方に1回目の接種を完了しています。今後、2回目の接種も進め、5月7日には終了できる見込みです。

県内では、児童施設でクラスターが発生する等子どもの感染が拡大しています。子ども達を感染から守るためにも、ワクチンの接種に積極的なご検討をお願いいたします。

次に、協定の締結についてです。

3月8日に、学校法人先端教育機構事業構想大学院大学と市は、「地方創生及び人材育成の推進に係る連携協定」を締結いたしました。本協定に基づき、令和4年度は、「南相馬鹿島サービスエリアのポテンシャル、多様な地域資源を活用した事業構想の構築」をテーマとしてプロジェクト研究を実施する予定です。産官学の協働により、地域課題の解決及びそれぞれの企業・団体に価値創造を担う人材の育成を目指します。4月15日まで本プロジェクトの研究員を募集中です。ご応募をお待ちしております。

なお、南相馬鹿島サービスエリアについては、併設する「セデッテかしま」が昨年12月に株式会社旅行新聞新社の「第42回プロが選ぶ土産物施設100選」に3年連続で入選し、スマートインターチェンジは4月29日午前6時から、24時間利用可能となります。事業構想大学院大学との取り組みと合わせて南相馬鹿島サービスエリアの利便性の向上や施設の充実等が図られ、地域経済の活性化につながることを期待いたします。

次に、市議会についてです。

3月24日に第2回南相馬市議会定例会が閉会しました。

この議会では、令和4年度の当初予算のほか、「南相馬市こども・子育て応援条例制定」など追加提案を含む議案57件について、全て原案どおり可決されました。

また、3月30日に第3回南相馬市議会臨時会を開催し、補正予算について原案どおり可決されました。補正予算では、災害見舞金や損壊した住宅等の修理に係る補助金など、災害救助や復旧に向けた費用を計上いたしました。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、ゼロカーボンシティ宣言についてです。

近年、世界各地で地球温暖化が要因とされる大規模災害が増加し、本市においても、令和元年東日本台風による甚大な被害が発生するなど、地球温暖化の影響は、私たちの身近な市民生活にまで及んできております。その要因となる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出削減に向けた取組みが、国内外で進められているところです。

これまで、本市では、東日本大震災後の復興の柱として、再生可能エネルギーの普及促進に取り組み、市内の消費電力量に対する再生可能エネルギーの導入比率が、令和2年度末時点で94.7%を達成するなど、温室効果ガスの排出量低減に努めてまいりました。

今後は、国や福島県が目標としている2050年脱炭素化社会へ向けた取組みを踏まえ、市の地域特性を活かした地球温暖化対策を推進していくため、南相馬市ゼロカーボンシティを宣言し、市民、事業者、行政等官民が一体となって協力しながら、市内の二酸化炭素などの温室効果ガスの削減に取り組んでまいります。

次に、春季競馬大会についてです。

4月29日に、相馬野馬追執行委員会による第77回相馬野馬追振興春季競馬大会が開催されます。当日は、実行委員会主催による野馬原マルシェも開催され、馬にちなんだ物品販売や飲食店の出店のほか、市主催による馬とのふれあいコーナーを設ける予定です。

### 【質疑応答】

#### 質問1：

ゼロカーボンシティ宣言について、浪江町では電気自動車の活用等に取り組んでいますが、南相馬市では具体的にどのような取り組みを行うのでしょうか。

また、今回の宣言に対する市長の受け止めに教えてください。

#### 回答1：市長

自動車の二酸化炭素排出量が最も多く、対策が急務となっていることから、市としても、公用車における電気自動車の導入にできるだけ早く取り組みたいと考えています。来年度10月には具体的な計画を発表する予定です。

本市では、市内の消費電力量に対する再生可能エネルギーの導入比率が、令和2年度末時点で94.7%を達成する等、エネルギーの地産地消を図っております。今後も、持続可能な開発目標であるSDGsの視点を取り入れながら、質の高い取り組みを続けてまいります。

#### 質問2：

3月16日に発生した地震の被災者を支援するボランティアについて、どの程度不

足しているのか、また不足している要因を教えてください。

**回答2：市長**

ボランティアが不足している要因としては、コロナの影響が大きいと思います。現在ボランティアの募集を、NPO団体等の組織で活動できる方々を除き、県内の方々に限定して行っていることが要因と考えています。また、ウクライナなどの国際情勢が大きく報道される中で、全国的には今回の地震の被害に対する認識が低いのではないかと考えています。

**回答2：健康福祉部長**

4月1日現在、ボランティアのニーズが133件、対応件数が82件、完了件数が62件、対応を継続している件数が71件となっております。

ボランティアの人数は4月3日現在で、385名となっております。

**回答2：市長**

ボランティアへの依頼内容として多いのは、屋根の修理、崩れた瓦やブロックの回収、住宅内の片づけ等です。中でも一番要望の多い屋根の修理は、高所での作業となり、技術や専用の機材が必要となるため、対応できるボランティアが不足しています。

また、被災された方の中には、住宅内の片づけや整理等はボランティアに依頼できないと思い、遠慮されている方がいるようです。ボランティアによる支援体制を整えていることを周知し、一日も早く復旧してまいりたいと思います。

**質問3：**

ボランティアに対する依頼内容として屋根の修理が多いとのことですが、令和3年2月の地震の際にも担い手不足等の問題はあったのでしょうか。

**回答3：市長**

今年は令和3年に比べて依頼件数が圧倒的に多く、概ね5倍程度になりそうです。梅雨の時期までに修理したいという要望も多く、急ぎ対応が求められています。

**質問4：**

スポーツセンターについてですが、大規模改修工事を進めてきたところで、今回の地震により被災しました。今週末に予定していた浮舟杯卓球大会は中止となりましたが、今月末に予定している日本卓球リーグ選手権は予定どおり開催できるのでしょうか。

**回答4：市長**

昨年の地震からの復旧及び大規模改修が終わり、本格的な利用を開始するタイミングで被災し、対応に苦慮しているところです。日本卓球リーグ選手権までには使用を開始したいと考えております。特に、スポーツセンターなど交流事業を行う大きな施設については、一日も早く復旧してまいりたいと考えています。

また、南相馬鹿島サービスエリアもセデッテかしまのレストラン等が大きな被害を受けました。5月の連休前までには何とか再開できるよう調整をしています。

以上